

## ◎内田脳神経外科・健康教室「健やか塾」にて 万次郎の講話を実施する！

7月9日の土佐ジョン万会総会にて「生死の大海を乗り越え咲く万次郎」との演題で講話をさせていただきました。その後、11月12日の「ジョン万サミット（土佐清水）」前日のレセプションにて土佐ジョン万の会・内田会長とお話をする機会があり、標記「健やか塾」の年末の催しで再度万次郎について講話してほしいとの要請があった。そこで12月11日、高知市塚ノ原にある内田脳神経外科関連施設であるカフェ鳥越で講話させていただくこととなった。

「健康教室・健やか塾の催し」は、「忘年会」と銘打たれ、11時に開始され、昼食を挟み、14時まで行われた。田村の講演は、11時30分から12時20分までの約50分間の時間をいただき、7月9日と同じ演題で再度お話をさせていただきました。以下その概要を記す。



## ◎演題「生死の大海を乗り越えて咲く万次郎」〈講話概要〉

### (1)土佐清水市史編さん事業の概要 P R

- ・市民向け、学校向けに実施した本年度の普及啓発活動を紹介した。活動時の写真等を見せて、活動の様子を詳しく説明。
- ・『学校日誌』『文集』『教材』『教具』等の学校資料保存について、中浜小に集積していることを紹介。
- ・今年度実施している中世～近世石造物調査等々の『市史・資料編』調査活動の様子を紹介。調査実施中の写真等を見せて具体的に説明。

### (2)万次郎少年時代の中浜浦の実態

- ・藩政期末に廻船商人「山城屋」が浦全体を支配し、雇われていた船子・納屋番師・バラ抜き女工は経済的にも、地位的にも低位の状況であり、万次郎はその時代様相の中で幼

いときから生きるために懸命に生きてきたことを説明。

- ・今津家に奴(やっこ・雑役)として10歳から仕え、玄米を踏臼で脱穀していたとき、砂利を入れて脱穀しているところを主人に見咎められ、言い争いとなった。奉公先を飛び出して隣り村の大浜に逃げ、そのまま大浜浦に停泊していた宇佐浦(現在の土佐市宇佐)船籍のカツオ船に就職したこと。山城屋に睨まれ、中浜浦から閉め出された可能性が高い。

### (3)天保12年(1841)1月5日足摺岬沖への操業と遭難(1月7日)

- ・1月5日に宇佐浦を出航し、足摺沖で流され、鳥島に漂着するまでの経緯。
- ・宇佐浦から足摺岬沖までは、その所々を景観写真で紹介。

1月5日-----宇佐⇒操業⇒興津西掛(泊)

1月6日-----興津西掛⇒佐賀沖⇒佐賀白浜

1月7日-----佐賀白浜⇒窪津沖⇒足摺岬沖

1月8日-----室戸岬沖

1月9日-----紀州沖

1月10～13日---黒潮に流され、絶海の孤島・鳥島に漂着



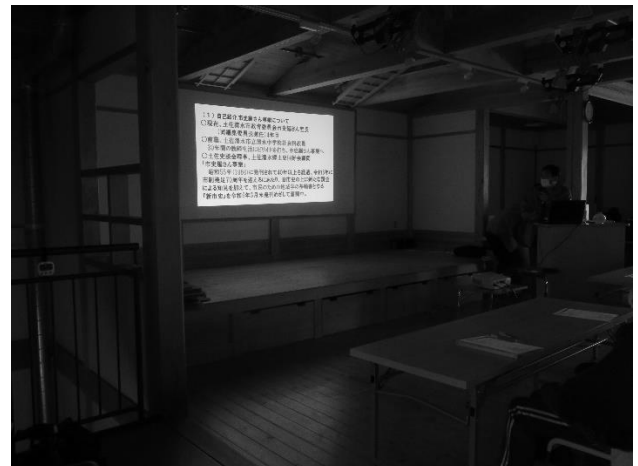
↑興津西掛

### (4)万次郎臨終の日[明治31年(1898)11月12日]の様子

- ・『中浜東一郎日記』の当時の記述から、万次郎のその日の起床から臨終までを再現した。
- ・人間が避けてはとおれない「死」について、万次郎の生き方を通じて考察する。  
万次郎は、妻や母、身近な人々の死と関わりながら、それを精神的に乗り越えつつ、自分の死もしっかりと見つめていたこと。



↑左写真は「土佐ジョン万会のメンバー」と「健康教室・健やか塾の催しの関係者」。左写真の左端から3番目が内田会長、5番目が田村。



### 〈編集後記〉

年末になり、通史編のゲラ原稿が出版社より続々と送られてきて、各編集委員さんにお送りしたり、手渡したりしている状況です。なんといってもまず各自が書かれた原稿ゲラをご本人がしっかり校正していただくことが基本です。次に、複数の目を通すことが必要です。他の編集委員や編さん室、監修、業者が重ねて校正していくことにより本人が気づかなかったところが見つかると思います。ゲラ校正は、念入り集中してお願いしたいと思います。よろしくお願いたします。(田村)